

(参考資料1) リスク評価物質 (5 物質) に関する情報

物質名 【CAS No.】	有害性情報 (発がん性評価、その他の有害性、 許容濃度等。IARC と ACGIH については 下記の用語解説も参照)	用途の例
ピリジン 【110-86-1】	<発がん性評価等> ○発がん性：ヒトに対する発がん性が疑われる ・ IARC : 2B ○生殖毒性：判断できない ○遺伝毒性：なし ○皮膚刺激性／腐食性：あり ○眼に対する重篤な損傷性／刺激性：あり ○皮膚感作性：あり <許容濃度等> ○ACGIH TLV-TWA : 1ppm (3.1mg/m³)	医薬品 (スルホンアミド剤、抗ヒスタミン剤)、鎮痛剤、無水金属塩の溶剤・反応媒介剤、医薬品原料、界面活性剤、アルコール変性
ニッケル (金属及び合金) 【7440-02-0】	<発がん性評価等> ○発がん性：ヒトに対する発がん性が疑われる ・ IARC : 金属ニッケル 2B ニッケル化合物 1 ○生殖毒性：判断できない ○遺伝毒性：判断できない <許容濃度等> ○ACGIH TLV-TWA : 1.5 mg/ m³ 不溶性ニッケル 0.2 mg/ m³ 水溶性ニッケル 0.1 mg/ m³ 二硫化ニッケル 0.1 mg/ m³ ○日本産業衛生学会 : 1 mg/ m³ 、 気道感作性第 2 群 皮膚感作性第 1 群 生殖毒性第 3 群	特殊鋼、鍛鍛鋼品、合金ロール、電熱線、電気通信機器、洋白、メッキ、貨幣、電池、非鉄合金、磁性材料、触媒
テトラエチルチウラムジスルフィド (別名：ジスルフィラム) 【97-77-8】	<発がん性評価等> ○発がん性：ヒトに対する発がん性は判断できない ・ IARC : 3 ○生殖毒性：判断できない ○遺伝毒性：判断できない ○神経毒性：あり	加硫促進剤、硫黄供与型加硫剤

	○皮膚感作性：あり <許容濃度等> ○ACGIH TLV-TWA：2mg/m ³	
二塩化酸化ジルコニウム 【7699-43-6】	<発がん性評価等> ○発がん性：ヒトに対する発がん性は判断できない ・ IARC：情報無し ○生殖毒性：判断できない ○遺伝毒性：あり <許容濃度等> ○ACGIH TLV-TWA：2mg/m ³ * TLV-STEL：10mg/m ³ * *（ジルコニウム及びその化合物、Zr として）	ジルコニル石けんその他ジルコニウム化合物の原料
メタクリル酸 【79-41-4】	<発がん性評価等> ○発がん性：ヒトに対する発がん性は判断できない ・ IARC：情報無し ○生殖毒性：判断できない ○遺伝毒性：判断できない ○皮膚刺激性／腐食性：あり ○眼に対する重篤な損傷性／刺激性：あり <許容濃度等> ○ACGIH TLV-TWA：20ppm （70mg/m ³ ） ○日本産業衛生学会：2ppm （7mg/m ³ ）	熱硬化性塗料、接着剤、ラテックス改質剤、共重合によるプラスチック改質、イオン交換樹脂、紙・織物加工剤、皮革処理剤

【用語解説】

I A R C（国際がん研究機関）の発がん性分類

- 1 ：ヒトに対して発がん性がある
- 2 A ：ヒトに対しておそらく発がん性がある
- 2 B ：ヒトに対して発がん性の可能性がある
- 3 ：ヒトに対する発がん性については分類できない
- 4 ：ヒトに対しておそらく発がん性なし

A C G I H：米国産業衛生専門家会議

TLV-TWA ：1日8時間、1週40時間の正規の労働時間中の時間加重平均濃度（連日繰り返しばく露されても大多数の労働者が健康に悪影響を受けないと考えられる濃度）

TLV-STEL ：15分間の短時間ばく露限界